

県産業技術センターの工業部門の研究のうち、工業総合研究所（青森市）ではICT（情報通信技術）・環境対応・新エネルギー、弘前地域

未来を開く

青森産技センター報告

— 50 —

研究所（弘前市）では健康関連・アルコール飲料・伝統工芸、八戸地域研究所（八戸市）では金属材料・機械加工などの研究を行っている。県内企

工業部門

ICTで高齢者見守り

スマート社会へ技術研究

業のニーズに応えた新技術や新商品の開発、技術相談にも対応している。これまでの成果として、「商品開発のためのデザイン手法」、「有害物質の鉛・カド

ミウムの迅速な分析」、「燃料電池」、「屋内の脱臭などに使える光触媒」、「ICTで高齢者見守りシステム」などの研究を実用化した。最近①医療・健康・福祉②低炭素・環境③伝統技術の3分野に重点化した研究を実施。①に関しては、プロテオグリカンの研究を進めてお



高齢者見守りシステム「元気スイッチ」



高齢者見守りシステム「Smyleline」

力してもらおうシステムで、緊急通報やビデオ通話の機能も持たせており、見守る側と見守られる側のお互いの安心を確保するものである。2015年度に県内企業が商品化した「Smyleline」は、さまざまなセンサー（人感、温度、照度、音響、脈拍）を用いて、高齢者の様子や部屋の状況が分かる。②については、ICTやセンサー技術を使い、牛の分娩開始のタイミングを通信で知らせるシステムの開発に取り組んでおり、このコーナーでも紹介した。③に関しては、漆器などの伝統工芸品で、現代の生活空間に調和する漆製品の色彩や形状の研究を行っている。

今後、コミュニケーションやものづくりなどさまざまな分野で活用が期待されるロボット技術やIoT（モノのインターネット）、AI（人工知能）技術の研究を進め、スマート社会の実現に貢献していく。

（工業総合研究所企画経営監 天間毅）

＝終わり＝

東奥日報 平成29年3月31日掲載

この記事は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。